

山中漆器産業技術センター 中期経営目標

(実施期間 平成27年度～平成29年度)

平成27年3月 策定

1 施設の設置目的

山中漆器産業の育成及び支援を行うための中核施設として設置しています。

2 施設の果たすべき役割

全国で初めての挽物轆轤技術研修所として、轆轤技術に関する知識技能はもちろん、新しいデザインや造形感覚を身に付けた将来の山中漆器を担う優れた人材、並びに産業界に即応できる技能者を養成することを役割としています。

また、山中漆器に従事する者に対して、漆芸教室等により職人の技術向上を図ることも役割としています。

3 事業内容

(1) 轆轤研修事業

人間国宝や日本工芸会正会員をはじめ、美術大学教授等の多彩な講師陣による講義や実習などから、多角的に学ぶことができる体制で運営しています。

① 基礎コース（2年制・定員5名）

挽物轆轤技術の基本的知識の修得と、制作・加工を通じた轆轤の基本的技能を修得できるコース

② 専門コース（2年制・定員5名）

挽物轆轤技術の基本的知識を修得した人が、立案からモデリング、製図、仕上げまでの高度な専門的知識と技能を修得できるコース

(2) 産業振興事業

① 人材育成事業

山中漆器産業に従事する企業主及び職人の技術向上を図る「漆芸技術研修」や、漆器産業に役立つITの知識技能を習得する「デザイン開発技術研修」を行っています。

② 産地活性化支援事業

歴史を学び商品開発や販路開拓に役立てる事業や、産地外からの挽物木地の発注に対し組合と研修所卒業生で対応するためのシステムをつくる事業等、山中漆器の活性化にかかる支援を行っています。

4 現状と課題

(1) 管理運営体制について

- ・石川県立山中漆器産業技術センターでは、施設を効率的・効果的に管理するため、指定管理者制度を平成18年度から導入しています。
- ・施設における轆轤研修事業、産業振興事業、施設・設備及び備品の維持管理及び修繕などの業務は指定管理者が行っており、当中期経営目標の実施期間である平成27年度から平成29年度までは「公益財団法人 山中漆器産業技術センター」を指定管理者としています。
- ・県では、指定管理者による適切な管理運営を行うため、事業内容の確認など管理業務に関する情報共有に努めています。

(2) 施設利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・入学者数については、ここ数年、基礎コースにおいて定員を満たす状況が続いていますが、地元の高校・短大・大学の進路指導担当者に対して、夏休み前から募集活動を行ったり、当センターの夏季休業期間に轆轤挽きや蒔絵の体験を行うオープンキャンパスを実施したりするなど、より積極的な募集活動とセンターのPRを行う必要があります。専門コースについては、基礎コースを修了した者が主な入学者となるため、基礎コースの定員を確保できるよう、努めていく必要があります。
- ・地元の職人等を対象とした漆芸教室や経営セミナー、施設・機器の開放、高校生を対象としたオープンキャンパス等、山中漆器産地の振興に寄与する事業を実施していますが、これまで以上に利用者に満足いただくため、今後とも事業の充実に努めていく必要があります。

(3) 施設運営の効率化について

- ・施設の管理運営については、これまで以上に経費節減とより環境に配慮した取り組みを徹底し、併せて老朽化した建物や設備等に対応した準備を進め、より一層適切な管理運営に努めていくこととします。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標（指定管理者が実現すべき目標）

- ① 基礎コースの入学志願倍率は、引き続き1.2倍以上を維持します。
- ② 専門コースの定員充足率を80%に高めます。
- ③ 利用者アンケートによる満足度において、利用者サービスは引き続き95%以上を維持し、施設の維持・管理は95%以上を目指します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標		H25実績値	目標値(H29)
① 基礎コース入学志願倍率（定員5名）		1.2倍	1.2倍以上
② 専門コースの定員充足率		60%	80%
② 利用者アンケートにおける満足度	利用者サービス	100%	95%以上
	施設の維持・管理	93%	95%以上

6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス（満足度）に向けた取り組み

- ・ 轆轤の実技実習時間数を増やし、より一層挽物轆轤技術向上に努めます。
- ・ 講師の高齢化が進んだことから、後任の講師を育成し、新しい感性のもと充実した研修を実施してまいります。
- ・ 当センターの知名度の向上を図り、入学志願者の増加にむけて、オープンキャンパスや山中漆器まつり等に合わせた施設の一般開放等を行います。
 - 山中漆器まつり（5月） センター設備を使用
 - オープンキャンパス（8月） 轆轤挽き・蒔絵の体験
 - 研修生作品展（10月） 石川県大阪事務所
- ・ より多くの方々に山中漆器や当センターを理解してもらうため、しいのき迎賓館での企画展（3月）や、轆轤挽き・蒔絵の体験などの一般公募体験教室を開催していきます。
- ・ 地元の高校、短大、大学からの入学志願者を増やすため、研修担当職員が夏休み前から、各校の進路指導担当教官と密接に連絡し、学生に山中漆器やセンターを知ってもらうため、学生への施設紹介を依頼していくほか、センターにおいて轆轤挽き及び蒔絵の体験学習に参加してもらえるよう働きかけます。
- ・ ホームページについては、他の研修施設との違いをアピールするため、山中漆器の原点である挽物轆轤技術の解説や、重要無形文化財保持者（人間国宝）である川北良造所長を筆頭に充実した講師陣を紹介するとともに、カリキュラムの詳細説明な

ど、内容の充実を図ります。

- ・挽物木地の受注システムや IT 機器を含む施設の開放など、山中漆器産地活性化のための事業の充実を図ります。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・常に清潔で安全快適な館内環境を提供するために、こまめに点検・保守・修繕作業を実施して、引き続き光熱水費等管理コストの縮減を図ります。

参考資料

1 施設の利用状況

(1) 利用指標(利用人数、稼働率などの状況) ※各年度4月学生数には休学者、復学者含む。

【基礎コース】

指標	単位	H23	H24	H25
定員充足率	%	120.0	100.0	100.0
総定員(各学年5人)	人	10	10	10
各年度4月学生数	人	12	10	10
1年	人	5	5	6
2年	人	7	5	4
志願倍率(翌年度入学者入試)	倍	0.80	1.40	1.20
志願者数	人	4	7	6
合格者数	人	4	6	6
就業率(進学者を除く)	%	50.0	100.0	100.0
卒業者数(うち進学)	人	6(4)	4(2)	4(2)
関連産業就業者数	人	1	2	2
うち県内	人	0	2	0

【専門コース】

指標	単位	H23	H24	H25
定員充足率	%	60.0	50.0	60.0
総定員(各学年5人)	人	10	10	10
各年度4月学生数	人	6	5	6
1年	人	1	4	3
2年	人	5	1	3
志願倍率(翌年度入学者入試)	倍	1.00	0.40	0.60
志願者数	人	5	2	3
合格者数	人	4	2	2
就業率	%	100.0	100.0	100.0
卒業者数	人	5	1	2
関連産業就業者数	人	5	1	2
うち県内	人	4	1	2

2 収支の状況

(単位:千円)

		H23決算	H24決算	H25決算	H26予算
歳出	職員費	19,476	22,020	19,390	21,389
	運営費	15,419	13,215	15,332	10,397
	研修事業費	18,112	16,104	16,735	18,079
	産業振興事業費	4,816	5,228	5,971	6,566
	計	57,823	56,567	57,428	56,431
歳入	授業料	3,322	2,547	2,953	3,176
	入学・検定手数料	121	114	139	139
	施設等使用料	28	37	39	30
	国庫補助金	0	0	1,014	1,150
	加賀市負担金	12,167	12,023	11,718	12,291
	漆器組合負担金	1,204	1,204	1,204	1,204
	一般財源	35,819	36,362	34,715	37,841
	雑収入他	5,162	4,280	5,646	600
	計	57,823	56,567	57,428	56,431

3 利用者1人あたりの一般財源投入額

	H23	H24	H25	備考
一般財源投入額 ①	35,819 千円	36,362 千円	34,715 千円	
利用者数 ②	18 人	15 人	16 人	轆轤研修事業 研修生数
	104 人	47 人	74 人	産業振興事業 参加者
	113 人	146 人	146 人	施設等使用者 数
利用者1人あたりの一般財源投入額 ①÷②	152 千円	175 千円	147 千円	